ひまわり

③ 2022 MAR

もくじ

2　情勢　あたりまえにはたらき　えらべるくらしを
3　きょうされん第45次国会請願署名・募金運動にご協力をお願いします‼
　亀岡福祉会ビジョン2025今年度の進捗を報告します！
4　〇曽たまねぎが地域をつなぐ
5　ちょっと聞いてよ！第37回
　新型コロナウイルス感染についてのお知らせ
6　私たちと一緒に働いてみませんか？・時・ご寄付

第二かめおか作業所仕事後の１枚「たくさんお仕事がんばりました！」

社会福祉法人 亀岡福祉会

〇法人本部：〒621-0033　京都府亀岡市稗田野町佐伯大門３０－１
TEL:0771-24-2596　FAX:0771-24-2597
ＨＰ　http://www.kamecomyu.net/

あたりまえにはたらき えらべるくらしを

荒樋博利
HIROTOSHI ARAHI
亀岡市相談支援センター
お結びセンター長（一般相談）

毎年、多くの皆様にご協力いただいている国会請願署名・募金運動が、今年度も昨年12月からスタートしました。

第45次となる国会請願署名・募金活動の請願項目は、「1．コロナ危機でも、障害のある人に安心したくらしを」「2．障害者総合支援法を、障害のある人が安心して働き、くらせる制度に」「3．福祉・介護現場等の深刻な人手不足を根本的に解消し、福祉に携わる人が働き続けられるように」「4．優生保護法被害者の尊厳を回復する法律を」です。どの項目も障害のある人たちやそのご家族、私たち関係者にとって大切なことばかりです。

全国各地で起きていること

特にこの2年間の世界的な新型コロナウイルス蔓延は、日本でも第6波を迎えて全ての人々に大きな影響を与え、いつだれがどこで感染してもおかしくない状況になっています。国は今年1月9日から3県、1月21日から1都12県、1月27日から京都府を含む1道2府15県に「まん延防止等重点措置」を発出し、その後も和歌山県や高知県へ発出されたことから、まん延防止等重点措置は期間延長も含めて36都道府県に広がっています（2月14日現在）。

そうした状況の中、全国各地で起きていることは、医療機関の受け入れの逼迫や保健所の機能がマヒ状態になっていることです。感染を疑う状態になっても検査が受けられない、感染しているかどうかもわからない、濃厚接触者の指定をしてもらえない、発熱外来で感染が判明しても保健所からの連絡がない、感染していても医療機関や療養施設に入れずに自宅療養を強いられる等々のことが起こっています。また「みなし陽性」という言葉も出始めて、感染等の判断は個々人の判断に委ねられるようになってきています。

当たり前の暮らしが当たり前に実現できるように

そのような窮屈で先の見えない社会情勢ですが、障害のある方からも「作業所へ通いたいのに通えない」「もっと仕事をしたいのに仕事がない」「毎週出かけていた余暇の外出もできなくなった」等の声だけでなく、「買い物へ行った時に腕を組むなどのサポートをお願いしていたが、いまは頼みにくくなり、買い物へ行きづらくなった」、「レジに並ぶとき、床に立つ位置の印があるようだが分からないので、他の人との距離が近すぎたり、割り込みをしていないか不安になってしまう」「釣銭のやり取りがトレーで行われるようになり、どこにあるか分からなくて困った」（視覚障害）、「みんなマスクをつけているので口の動きが読み取れず、何を言っているのか分からない。情報が分からないので不安だ」（聴覚障害）、「コロナ感染が怖くて外出を控えているが、こもりっぱなしになってしまった。イライラしたり、生活リズムが崩れたりした。食欲も落ちてしまった」（知的障害、精神障害）というような声も聞かれます。

また障害のある方を受け入れている作業所等の事業所は、ご家族の陽性、濃厚接触者の発生で利用されている方や職員に感染の疑いがある場合は、急きょ事業所を閉所して自宅待機（グループホーム待機）などをお願いし、その間に自前で購入・依頼した抗原検査やPCR検査を実施して感染の有無を確認するなどの対策を取っています。しかし、安全が確認され再開したとしても、また別ルートで疑いが発生するイタチごっこが続いていますし、受け入れる職員側も同様で、職員のご家族等の感染や感染の疑い、あるいは保育所の休園や学校の休校等々により出勤を控えざるを得ない状況が起きて、極めて厳しい事業所運営になっています。

これらのことは何も障害福祉分野だけのことではありません。高齢福祉の分野や医療分野でも起こっていることで、私たちの仕事は在宅ワークに置き換えられるものではありません。強いて言えば、全ての人が望むあたりまえの暮らしが当たり前に実現できるよう、この国会請願署名・募金活動を通してお伝えしていきたいと思います。

きょうされん　第45次国会請願署名・募金運動にご協力をお願いします!!

毎年多くの皆様のご協力をいただきながら積み重ねてきた国会請願署名・募金運動も、今年で45回目を迎えました。振り返ればあっという間の45年かも知れませんが、1年1年の重みをかみしめながら、がんばっていきたいと思います。

今年も、コロナウイルス感染拡大防止のため、街頭署名が中止になりました。さらに、今年に入ってからは亀岡福祉会のなかでも、コロナのため閉鎖せざるを得ない事業所もあり、署名活動も一時停滞してしまいました。

現在は、障害のある人の願いや思いを、一人でも多くの方に知っていただけるよう、団体依頼に本格的に取り組んでいきます。引き続き署名・募金運動にご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

目標	署名	１３，２００筆
	募金	３５０，０００円
到達（3月12日現在）		
	署名	９３４筆
	募金	５３，４００円

亀岡福祉会ビジョン2025 今年度の進捗を報告します!

私たち亀岡福祉会は、１９７８年に産声を上げ、２０１８年に40年の節目を迎えました。また、指針をもって事業展開をしていくための『亀岡福祉会ビジョン』も２０１８年度で区切りを迎え、次期ビジョンの作成が必要となっていました。歴史の節目と、事業計画の節目を同時に迎えることとなったこのタイミングで「いままでのこと」を振り返り「これからのこと」を計画しようとビジョンづくりに取り組みました。利用者・家族・職員が何度も会議や見学を行いながら、約1年間の作成期間を経て『亀岡福祉会ビジョン２０２５』（亀岡福祉会の２０２５年までの事業計画という意味）を完成させました。

ビジョンでは利用者の生活に不可欠な「はたらく」「くらす」「ささえる」の3分野と、職員集団が「そだちあう」ということの計4分野の事業計画を作成し、現在ではビジョン推進の真っただ中にあります。

推進している中で「新しい事業所にはこんな機能が欲しい」「こんなことをしたい」と事業の中身についての意見を出し合っていますが、こういった「中身づくり」には不可欠なのが土地探しになります。しかし「障害者施設」の建設には地元の合意が欠かせません。私たちが懸念していたことでした。

しかしながら、事業計画の相談をすると「ぜひこちらで建設してください」という地元の方が非常に多く、他にも「ぜひ一緒に事業をしましょう」と企業の方からもお声かけをいただいています。ビジョンを推進していく中で痛感することは「多くの方の協力なくしてビジョンの実現は成しえない」ということです。そんな中、私たちが思っていたよりも理解や共感の輪が広がっていることが、ビジョンを推進している中で何よりもうれしいことになっています。

いまはコロナ禍で中止されていますが例年であれば亀岡市の小学生の方が「福祉学習」として作業所に来られます。その中で作業所の説明をするときには「作業所は勝手にできたわけではなく、多くの方の協力があってできた地域の財産なんです」とお伝えしています。先輩からの受け売りの言葉でしたが、ビジョン推進の中でこの意味を実感しています。この場を借りて、ご理解とご協力をいただいている皆さんにお礼を申し上げます。

本当にありがとうございます。